

地域に広がる

みまもりの輪



「おはよう」「おかえり」「きをつけて帰れよ〜」「帰ったら、うがいせよ〜」…子どもの登下校中、あちこちで聞こえるこんな声を掛けているのは、皆さんもご存じの「見守り隊」の皆さんです。

安全とともに、子どもたちの成長を見守る温かい心。今月は、「見守り隊」の活動について取り上げます。

見守り隊の効果

見守り隊の活動は、どんな効果があり、実際に犯罪は減っているのか？

敦賀警察署生活安全課の浦谷均係長にお聞きしました。

見守り隊の活動にはどんな効果があるの？

★「見せる」防犯効果

見守り隊の効果として、まず「見せる」防犯効果が大きいと考えます。見守り活動の姿を不審者に対し「見せる」ことで、犯罪抑止につながっていきます。

不審者は、人目を嫌います。特に、隊員のジャンパーは蛍光色なので、日中はもちろん、夜間でもよく目立ちます。当然、不審者の目にも入りやすく、「この地区は防犯体制がしっかりして



蛍光色のジャンパーが効果大

いるな」と警戒させることができるため、犯罪の未然防止に役立ちます。

自主防犯意識の高まり

見守り隊の活動は「自分たちのまちは自分たちで守る」という自主防犯の象徴です。この自主防犯意識の高まりが、地域安全の第一歩となり、犯罪抑止の大きな力になります。

見守り隊の活動によって、地域全体が防犯意識や交通安全意識を高め、「この交差点では注意しよう」「この道

は人けがなく警戒が必要」といった危険箇所の情報を共有することで、防犯体制の強化へとつながります。

また、青色回転灯を付けた車両での巡回や、犯罪抑止看板の設置など、二重三重の警戒へと活動が広がり、地域が「犯罪を未然に防ぐまち」へと発展していきま

す。

見守り活動は、こういった安全・安心な地域づくりのきっかけとなる活動であり、大人と子どもが声を掛け合うことで、青少年の育成にもつながります。

約1,000人が市内で活動中

全国で下校中の児童が狙われる事件が相次いだ平成17年。子どもたちを守るべく、市内各地で、見守り隊など自主防犯グループが、本格的に立ち上がりました。

平成17年の時点で、隊員数は約350人。その後、5年間でどんどん広がり、現在では、市内の小中学校を併せて、約1,000人の方が見守り活動に携わっています。

市内の小学校の見守り隊

学校名	名称
敦賀西小	西小見守り隊
敦賀南小	南の子見守り隊
敦賀北小	北っ子見守り隊
松原小	うみのごみまもり隊
中央小	お帰り運動
杵見小	くつみ〜る隊
常宮小	常宮小見守り隊
西浦小	西浦小中学校見守り隊
東浦小	見守りボランティア
赤崎小	赤崎っ子見守り隊
咸新小	東郷ネットワーク見守り隊
中郷小	中郷小学校おかえり運動
粟野小	粟小みまもり隊
粟野南小	ミテルンジャー
黒河小	黒河小学校見守り隊

(平成21年9月現在)

見守り隊のメンバーは、PTA、老人会、ボランティアなど、地区によってさまざま。しかし、下校時間は保護者の勤務時間に重なることが多く、どの地区でも、高齢者の存在が、見守り活動の大きな力となっています。

活動内容としては、登下校の時間に合わせた、路上での見守りが中心。交通事故や不審者などに気をつけながら、毎日子どもたちの安全を見守っています。

犯罪は減ったの？

見守り隊が本格的に活動を始めた平成17年以降、敦賀警察署管内の刑法犯認知件数は、年々着実に減っています。これは、見守り隊の皆さんをはじめ、地域の人々が目を光らせていることが大きいと考えます。

しかし、犯罪が減ったからといって油断はできません。昨年も当署管内で、公然わいせつや声掛け事案などが14件発生しています（一昨年より10件減少）。発生の傾向として、時間帯は16時から20時までの間が多く、場所は、路上、公園で多く

発生しています。夕方の下校時に、人目につきにくい場所を通るときは、特に注意が必要です。児童が一人になる箇所などを点検し、見守り隊、地域、学校、警察などが連携するとともに、*リュウピーネットなどを活用し、情報を共有することが大切です。

*リュウピーネット
会員登録をすると、警察からメールでいち早く犯罪情報などが発信されるシステム

見守り隊の皆さんへ

子どもの安全を守るため、ボランティアで協力いただいている見守り隊の皆さんには、敬意と感謝の気持ちでいっぱい입니다。見守りを行っていたたくさんの方から、今後もよろしくをお願いします。



みまもり隊がもたらした 地域と学校のつながり 〜粟小みまもり隊の 取り組み〜



粟小みまもり隊隊長
後居 秀幸 さん

市内でいち早く結成し、熱心に活動を続けてきた「粟小みまもり隊」。どんな思いで活動を続け、どんな成果があったのか？

粟野小PTA会長でみまもり隊の隊長も務める後居秀幸さんと、粟野小教諭で生徒指導主事を務める橋本誠さんの2人にお話を伺いました。

結成時のことを 教えてください

★「おかえり」で十分

【後居】平成16年に校区内で不審者事件が発生していたため、当時のPTAが中心となり、みまもり隊を立案しました。

より多くの方に参加してもらいたかったので、活動内容は細かく決めませんでした。

どんな成果がありましたか？

★充実した活動

【後居】 隊の結成以後、校区内では、声掛け事業や大きな交通事故は発生していません。学校、地域が協力してみまもり活動を持続してきた成果だと思います。

隊の大半を占める高齢者の方からは、「子どもの笑顔が見られて楽しい」「見守り活動は生きがい」などの声が聞かれ、充実した活動ができていると感じています。また、普段の会話でも、防犯のことや子どもたちのことが、自然に話題に上がっています。地域コミュニケーションの高まりを感じますね。

★安全マップを作成

【橋本】 当時は、全国で児童を狙う凶悪事件が相次いでいたため、みまもり隊の存在は本当に心強かったです。学校としても、隊の発足後、児童の安全対策にさらに力を入れました。「児童を極力一人にさせない」という基本方針をたて、下校グループの再編成などを行いました。

また、みまもり隊の方と児童、教師が協力して「安全マップ」を作成。マップには、「この通りは人目がつまにくい」「長い区間、

★顔の見える結びつき

【橋本】 隊の皆さんからは、防犯情報はもちろん、それ以外でも、多くの意見をいただいています。月1回提出いただく「みまもり日誌」には、交通マナーの良し悪し、あいさつが元気といった子どもの様子が丁寧に記入してあり、とても助かっています。

学校でも、隊員さんの活動にお礼をしようと、「感謝の集い」を開催。子どもたちが、日頃の感謝の気持ちを伝えたり、手作りのプレゼントを贈ったりして、交流を深めています。子ども

最後に…

★みちくさのできるまち

【後居】 粟小みまもり隊の大きな目標は、「みちくさ」のできる帰り道を作ることです。

私たちの子ども時代は、みちくさで自然を学び、みちくさから、地域の大人たちに知恵や社会のルール

民家がない」「車の出入りが多い」など、細かい情報を書き込み、危険箇所をみんなで共有しました。

粟小みまもり隊で大切にしていることは？

★子どもに関心を持つ地域づくり

【後居】 粟小みまもり隊では、不審者に目を光らせるよりも、みまもり隊を通して、「住民どうしが顔見知りになり、子どもに関心を持つ地域をつくること」を大切にしています。

昔は、下校中におじいちゃんおばあちゃんが「おかえり」と声を掛けてくれた光景が当たり前でした。「あの子は〇〇さんの家の子」とみんなが情報を共有し、何かあったときは、すぐ親や学校に連絡できる体制が自然とできていました。地域コミュニケーションが崩れている今、みまもり隊は、そういった昔の光景を取り戻すきっかけになると思います。犯罪が起きてから不審者に目を光らせるまちではなく、住民どうしがコミュニケーションを深めることで、犯罪を未然に防ぐまち。そんなまちを目指しています。

といったものを教わりました。また、大人に信頼を寄せ、時に恐れ、そして敬うことを身につけてきました。子どもたちの成長には、地域の子どもに目を向けてくれる大人”の存在が不可欠です。今後、そんな大人が増え、地域ぐるみで防犯、そして子どもをみまもるまちになるよう、地道に活動を続けていきたいです。

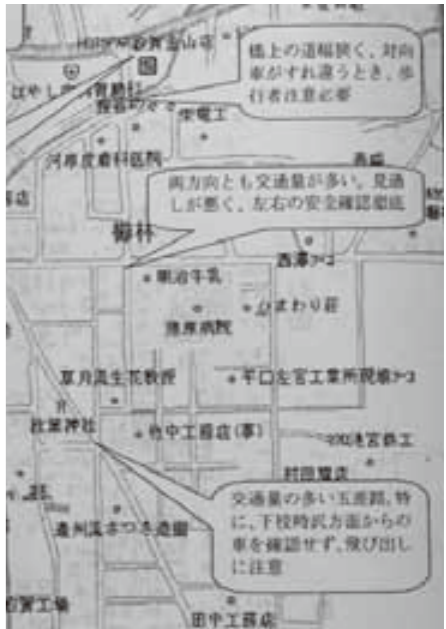
つるがっ子を
みまもる大きな力。
これからも
みんな
“みまもりの輪”
を広げていきましょう。



粟野小学校教諭（生徒指導主事）
橋本 誠 さん



昨年7月の感謝の集いでは、子どもたちが手作りのカレンダーをプレゼント



隊員、児童、教師が協力して作成した安全マップ

